

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
149

【神秘学ポエジー～風遊戯 第298集】 photo ヴァージョン
photopos 3701-3725

《2024.10.28～2024.11.21》

神秘学遊戯団

☆photopos-3701 2024.10.28

水を見るとき

水に習うために
水とともにある

そして
水とともに流れ
水となる

光を見るとき

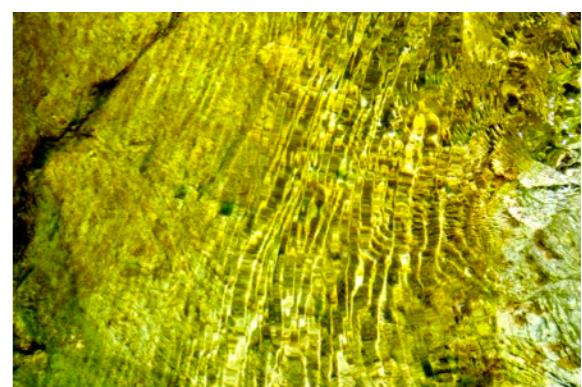
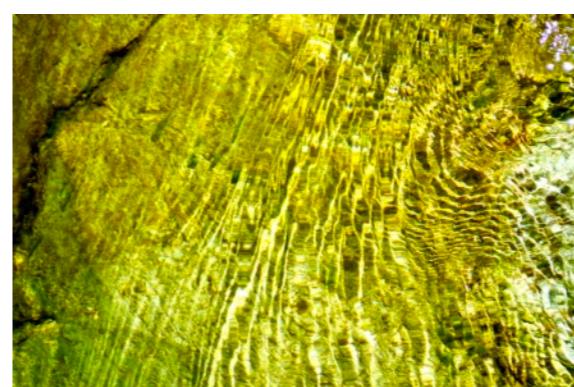
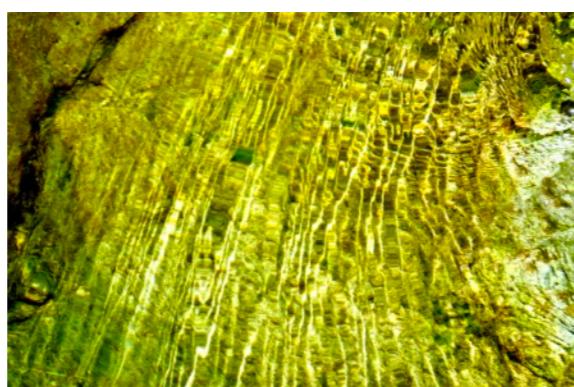
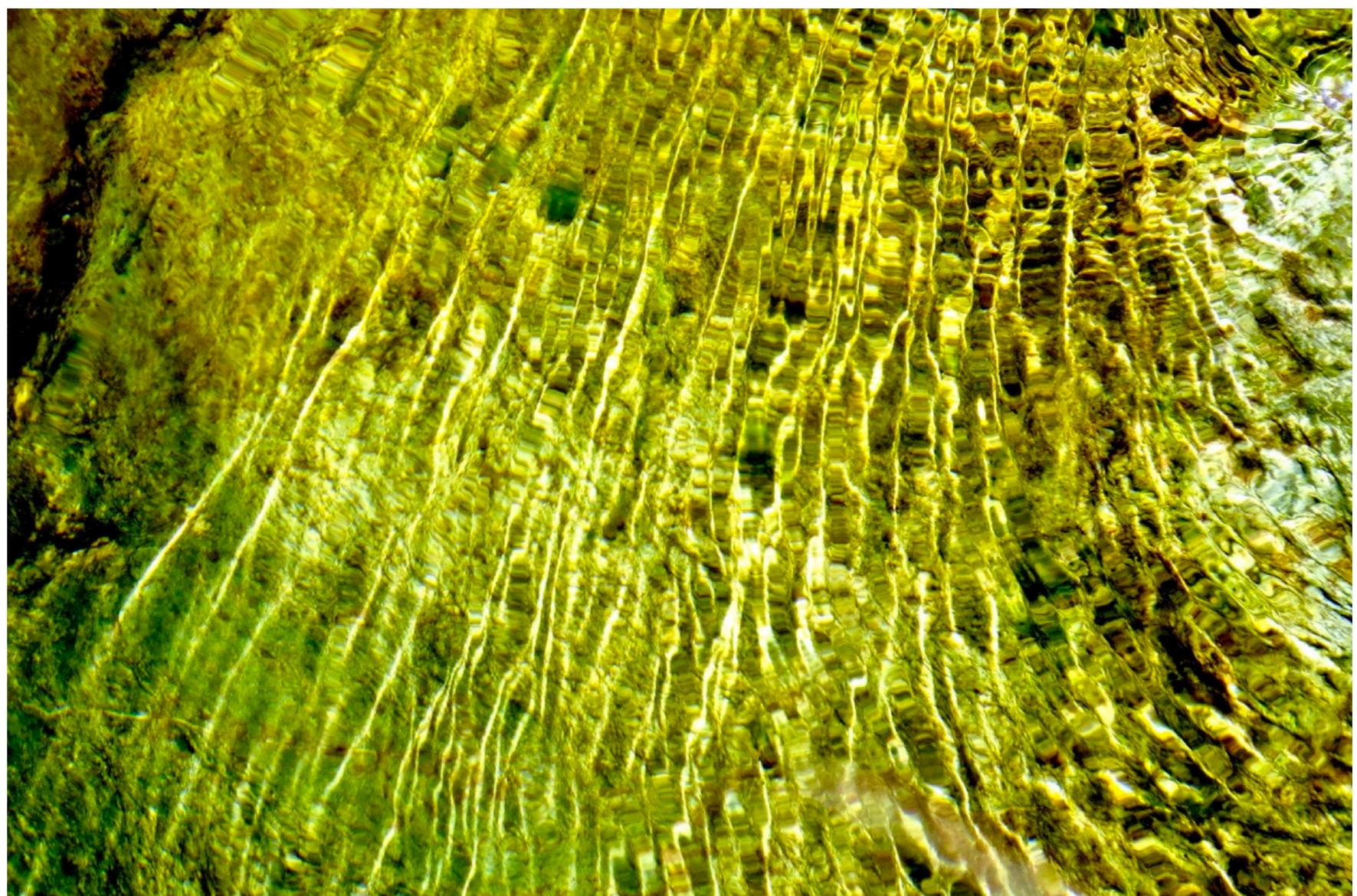
光に習うために
光とともにある

そして
光とともに照らし
光となる

花を見るとき

花に習うために
花とともにある

そして
花とともに咲き
花となる



*愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3702 2024.10.29

姿なき姿を
想像せよ！

花なきことでこそ
花は顕れ

光なきことでこそ
光は顕れ

秘されることでこそ
秘密は顕れ

我なきことでこそ
我は顕れるように

無という陰画から
存在は顕在化する



*愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3703 2024.10.30

戦争から
脱走する

生きるために

見えない檻から
脱走する

自由になるために

教育から
脱走する

考えるために

知識から
脱走する

経験するために

意味から
脱走する

遊ぶために

かたちから
脱走する

変わるために

みんなから
脱走する

じぶんであるために

じぶんから
脱走する

未知のじぶんのために



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3704 2024.10.31

生きることは
デジタルではないから
圧縮することはできない

圧縮できるのは
死んだデータだけ

解凍しても
生き返りはりしない

感じることは
デジタルではないから
圧縮することはできない

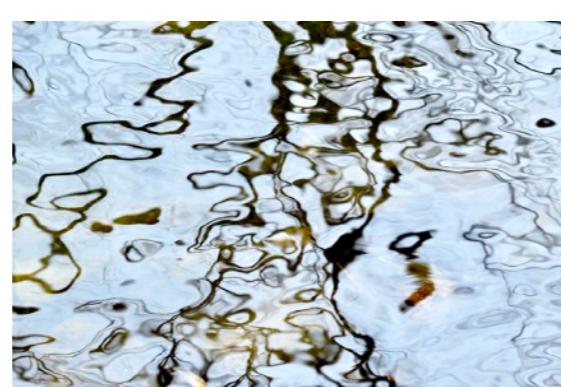
圧縮できるのは
化石のようなデータだけ

解凍しても
心には響かない

問うことは
デジタルではないから
圧縮することはできない

圧縮できるのは
教科書的なQ & Aだけ

解凍しても
未知への扉は開かれない



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしは
食べものでできている

食べものが
わたしになるのだ

口から
食べるだけではない

目から
耳から
鼻から

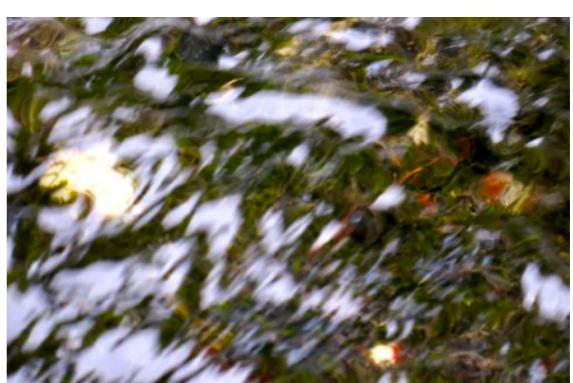
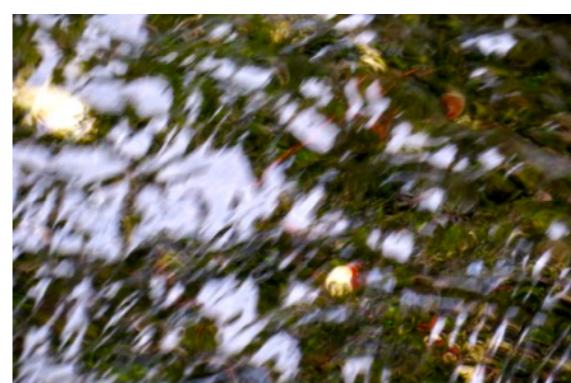
そして
手から
言葉から
心からも

数えきれないほどの
食べものを食べている

どのように食べるか
それもまた
食べものになり
養分となる

わたしは
なにを食べてきただろう
これから何を食べてゆくだろう

わたしは
食べものでできている



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3706 2024.11.2

変わりたい
いくらそう思っても
頭では変われない

言葉も思考も
いちど教えこまれた形を
変えることはむずかしい

からだが
変わろうとはしないからだ

食べものを
変えることさえ
むずかしいように
からだを変えるのはむずかしい

からだを変えるためには
日々の生を送る
その感性そのものを
変えなければならない

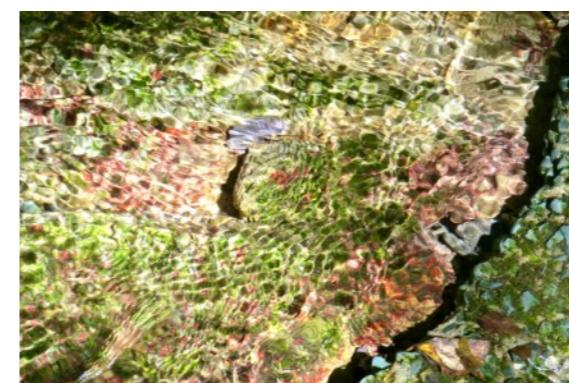
からだを変えるには
長い長い時間がかかる
いまの生のあいだでは
変わることがむずかしいほどに

生まれかわった頭は
前の生の手足がつくるという

手足をたしかに使わなければ
たしかな頭をつくれないということだ

変わりたい
そう思うならば
豊かな感性をもち
それにふさわしく
手足をたしかに使うこと

うまくすれば
生きているあいだに
少しは変わることができるかもしれない



愛媛県内子町小田深山渓谷にて

☆photopos-3707 2024.11.3

空は
空しいのではない
からっぽなのでもない
ただ自由なのだ

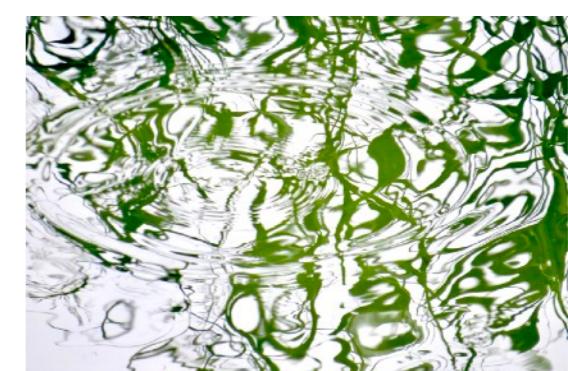
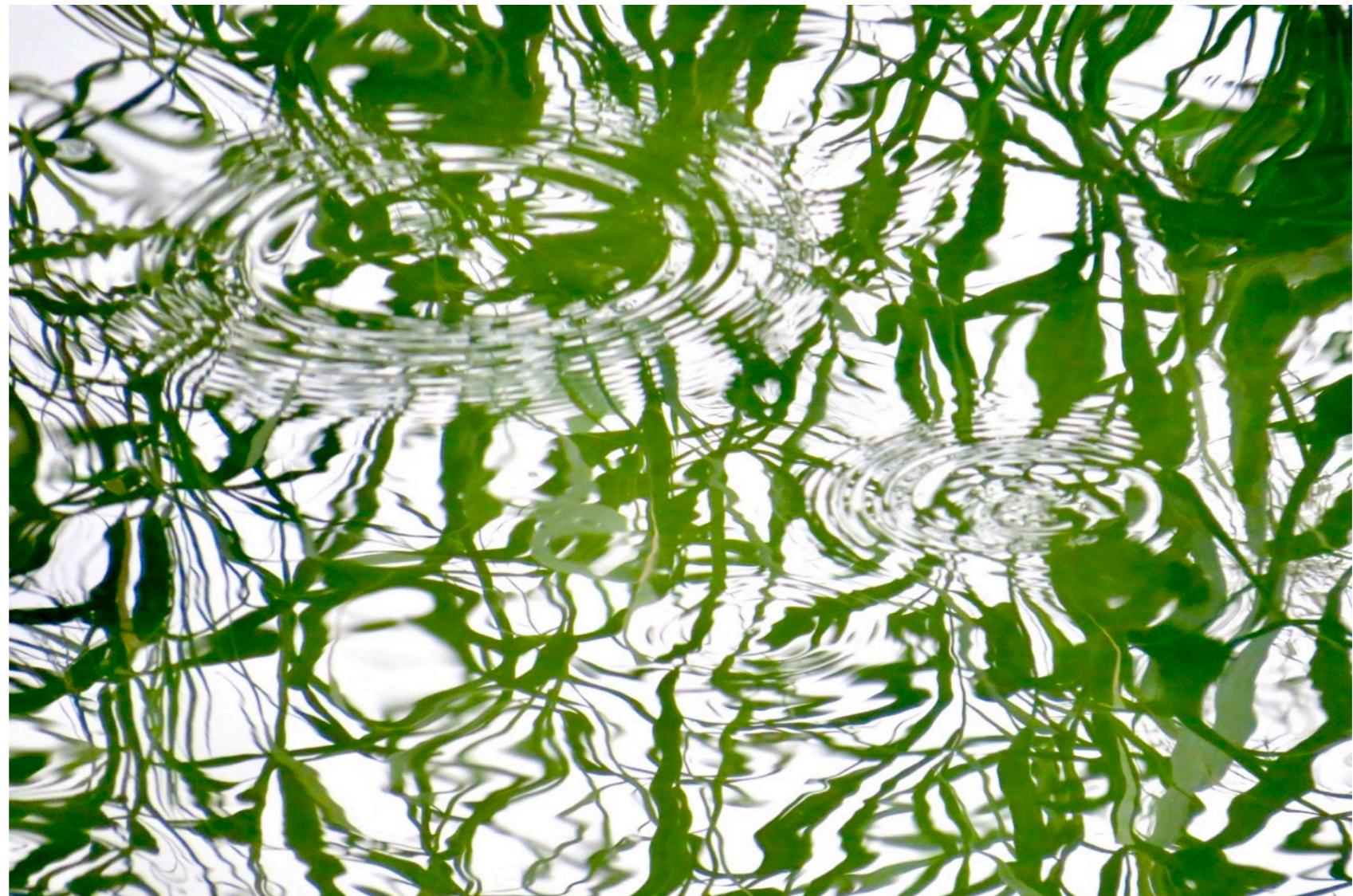
世界は
色として
現象しているが
それそのものが空

なにかに
とらわれたとしても
そのとらわれそのものもまた
空である

無は
無いのではない
無情なのでもない
ただ有の源にあるのだ

世界は
存在として
現象しているが
それは無から生まれた

どんなに
動かしがたいものがあったとしても
その存在そのものもまた
無から生まれ無へと還っていく



*愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3708 2024.11.4

いのちは
宿り

いのちは
運ばれ

いのちは
問われ

いのちは
迷い

いのちは
選び

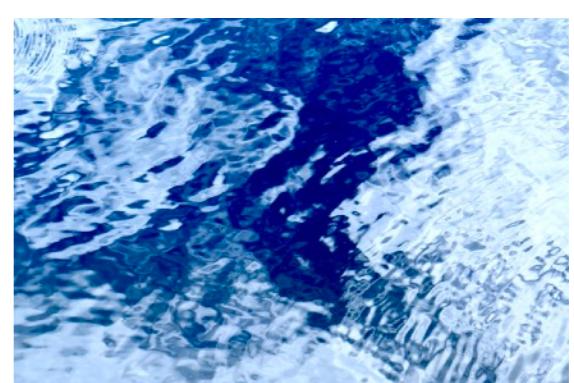
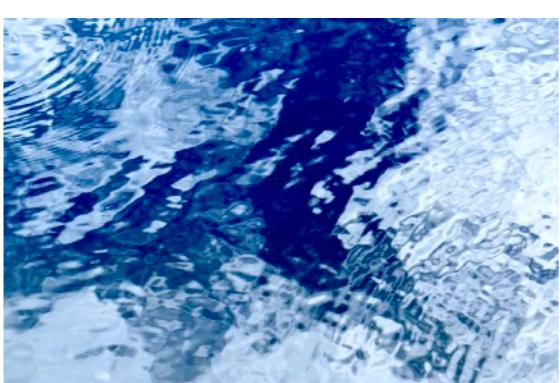
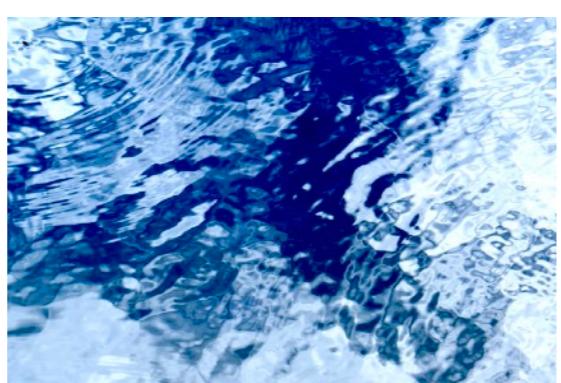
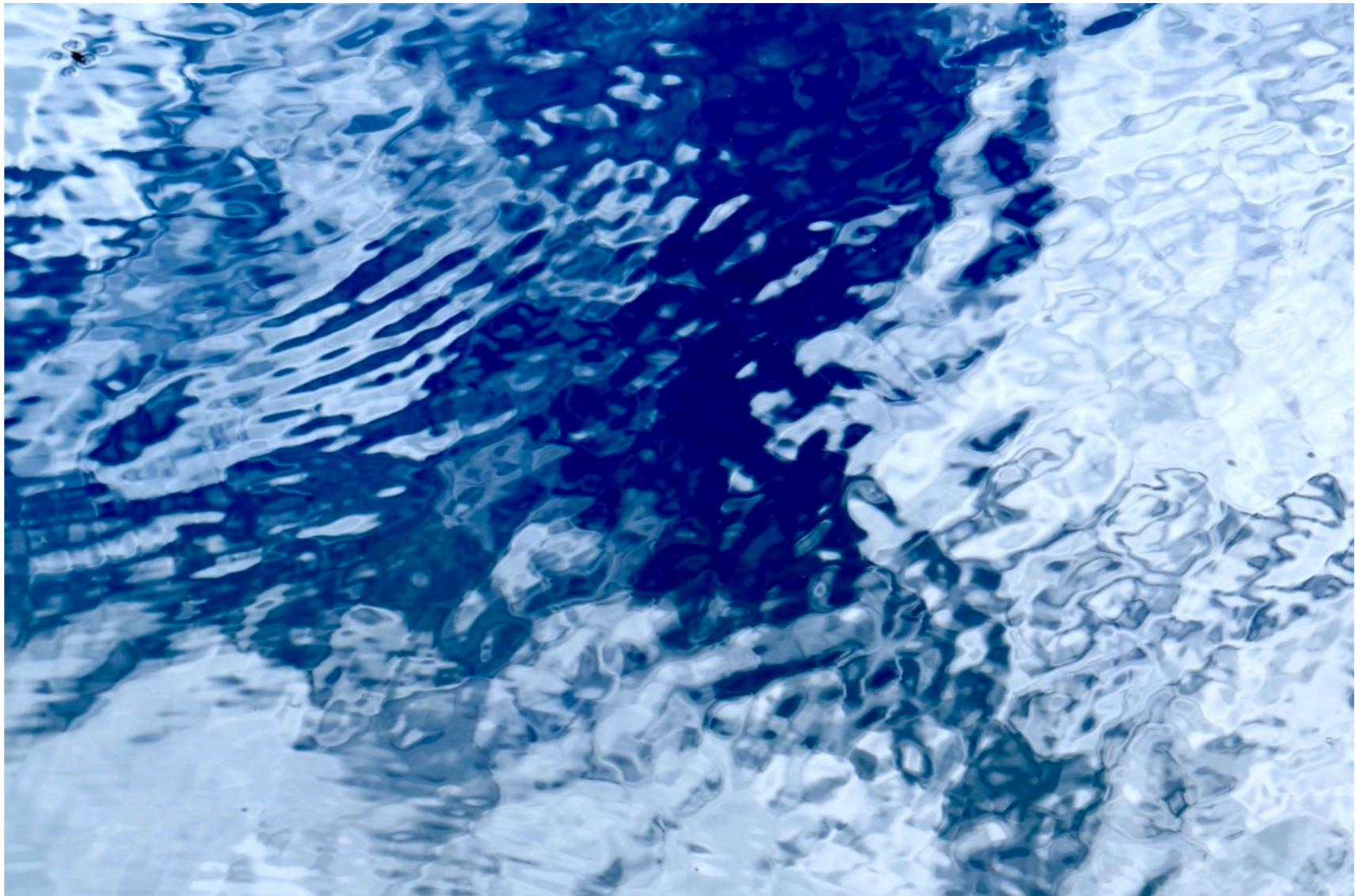
いのちを
運び

いのちを
使い

いのちを
繋ぎ

いのちを
結び

いのちを
渡す



*愛媛県伊予郡砥部町・用水池にて

忘れるための
呪文を教えてください

覚えることよりも
忘れるほうが
むずかしいから

記憶の檻のなかで
窒息しないために

知らないことに気づく
呪文を教えてください

知ることよりも
無知を知ることのほうが
むずかしいから

知識の檻のなかから
自由になれるように

学んだことから逃れる
呪文を教えてください

学ぶことよりも
学びから脱するほうが
むずかしいから

教えられたかたちを
取り消すことができるよう



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

息苦しくなったら
現実という檻の外へ

気づかなければ
現実は閉じたまま
その外に出ることはできない

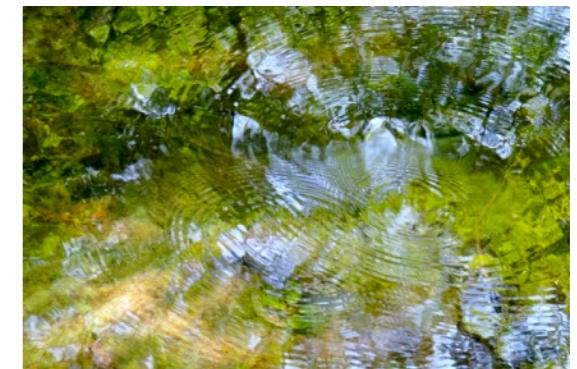
現実はつくられている
つくられたものならば
つくりなおすこともできるだろう

閉じ込められていることに
気づかせるため
波紋は生まれる

小さな変化は
バタフライ効果のように
やがて大きな変化へ
小さな問いは
やがて大きな問いへ

波紋が広がるように
現実は溶かされながら
その外へと向かっていくだろう

外を恐れてはならない
恐れは檻をつくる
自由は恐れの外にあるのだから



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3711 2024.11.7

わたしたちはタネとなり
みずからが
みずからを蒔いている

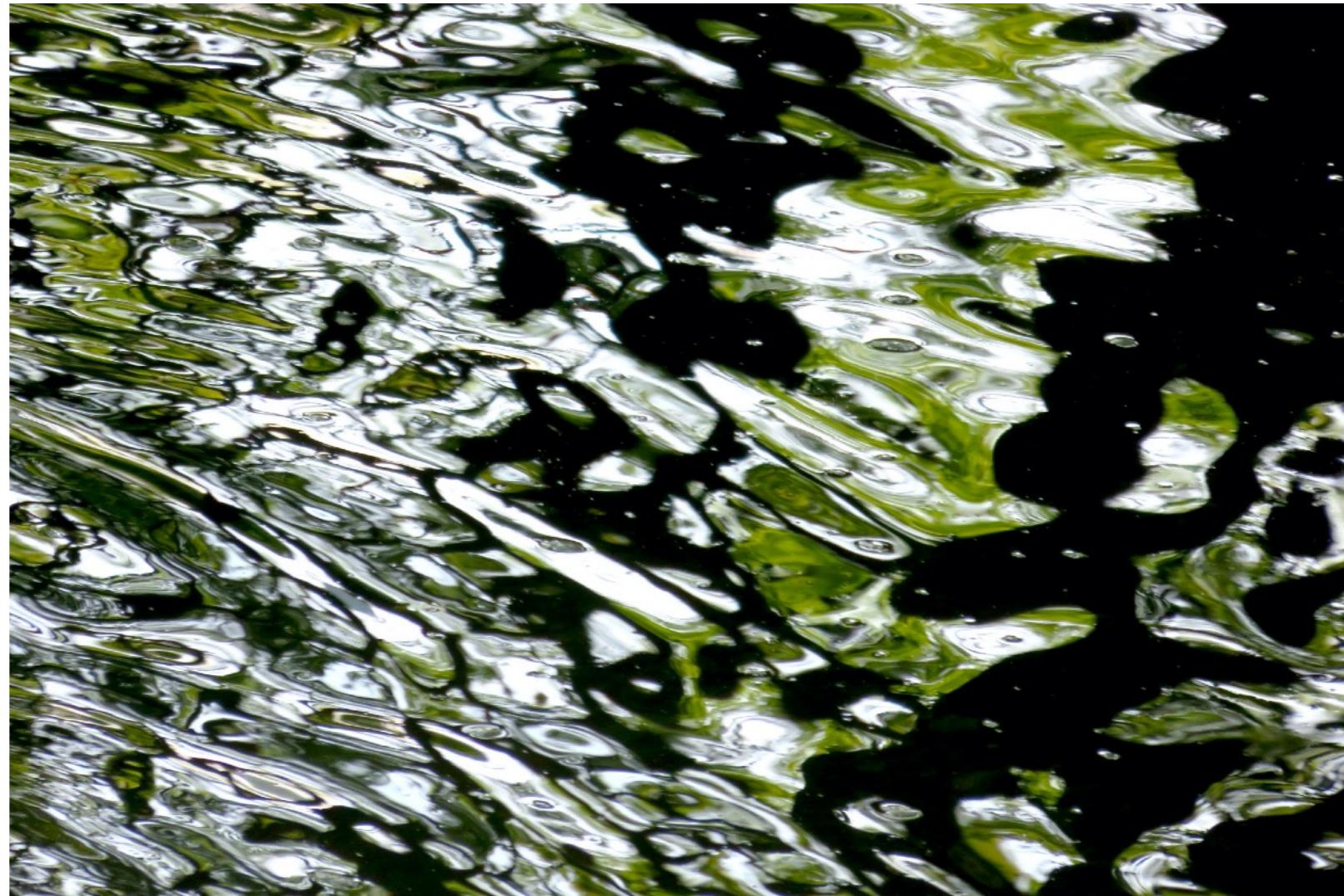
蒔かれた土地は
さまざまで
荒れた地もあれば
肥沃な地もあるが

蒔かれた土地で
みずからを芽吹かせ
育てていかねばならない

そこがどんな地であれ
わたしたちは
そこで生きねばならない

ときには死と背中合わせのままに
ときには長い時をかけ
芽吹く時を待たねばならないとしても

わたしたちは
みずからがタネとなる自由
みずからを蒔く自由のもとに
時空を超え旅を続いているからだ



愛媛県久万高原町・古岩屋にて

目の前に現れた現実に
踏み迷ったときは

じぶんの言葉を
目覚めさせるために

かつて
でも
やがて
でもなく

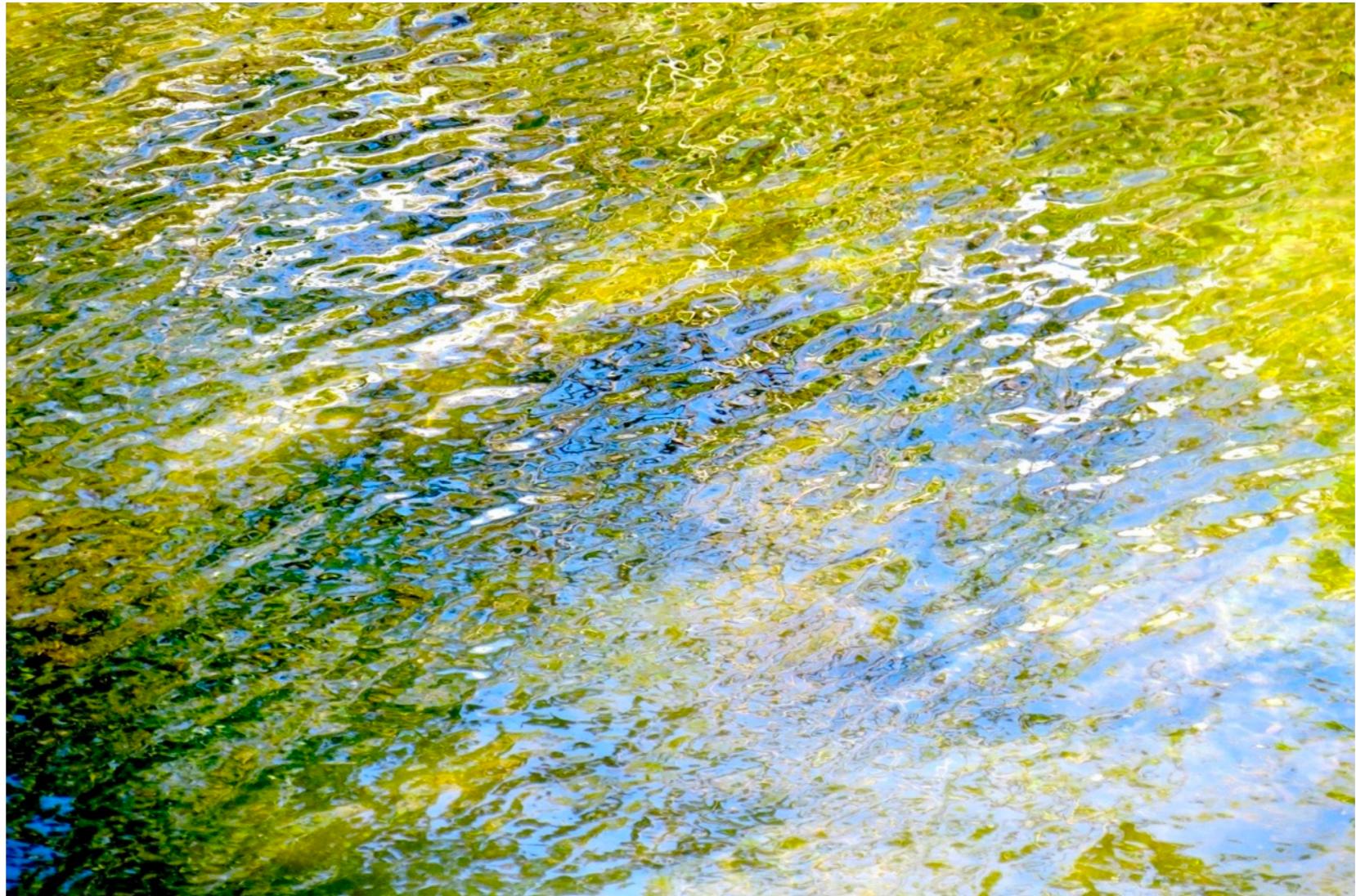
時空を超えた
いまここで

みずからが
形なきメディアとなり

意識の深みから
言葉を憑依させる

それは
かつてみずから発し
置き忘れてきた言葉たち

意識の深みから
目覚めてくる
そんな言葉たちとともに
迷路の出口を探すということだ



*愛媛県伊予郡松前町にて

世に言う道徳は
戒律である

戒律は
神か権威か世間から
ただ与えられるから

殺してはならない
ということでさえ
殺せという命令ともなり得る

そして与えられた戒律には
ただ従うしかなくなる

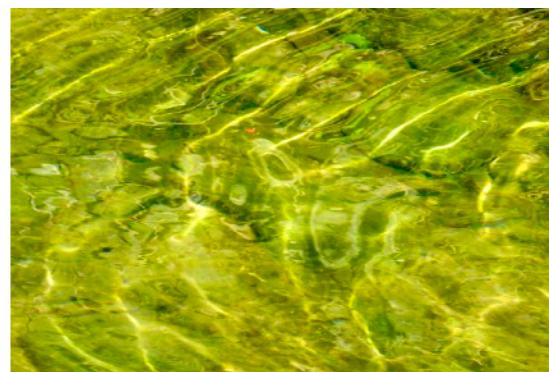
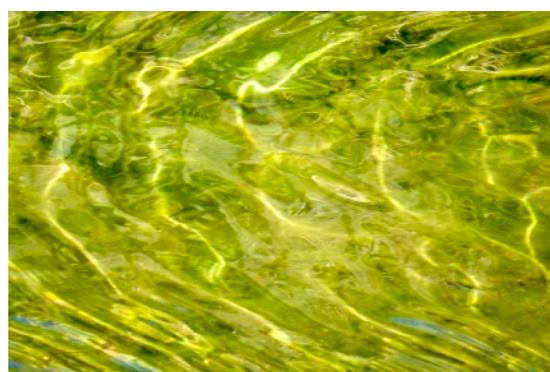
そこに自由はない

自由を得ようとすれば
神や権威や世間の外へと
エクソダスしなければならない

与えられる情報も
じぶんで確かめないかぎり
戒律となる

そこに自由はない

自由を得ようとすれば
与えられた情報の外へと
エクソダスしなければならない



*愛媛県伊予郡松前町にて

☆photopos-3714 2024.11.10

ことばに縛られて
こころが動けなくなったときは

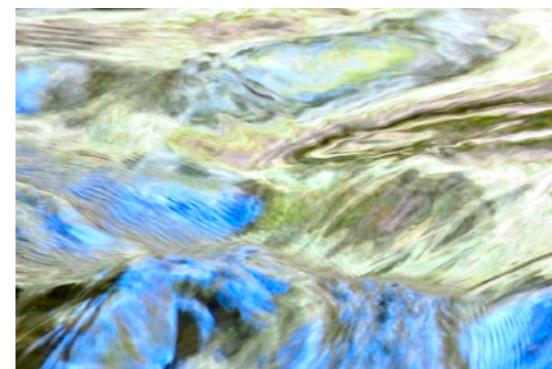
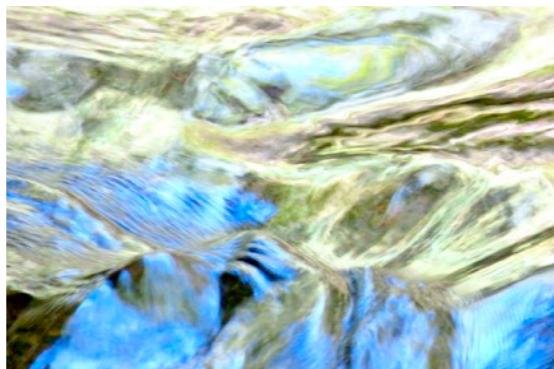
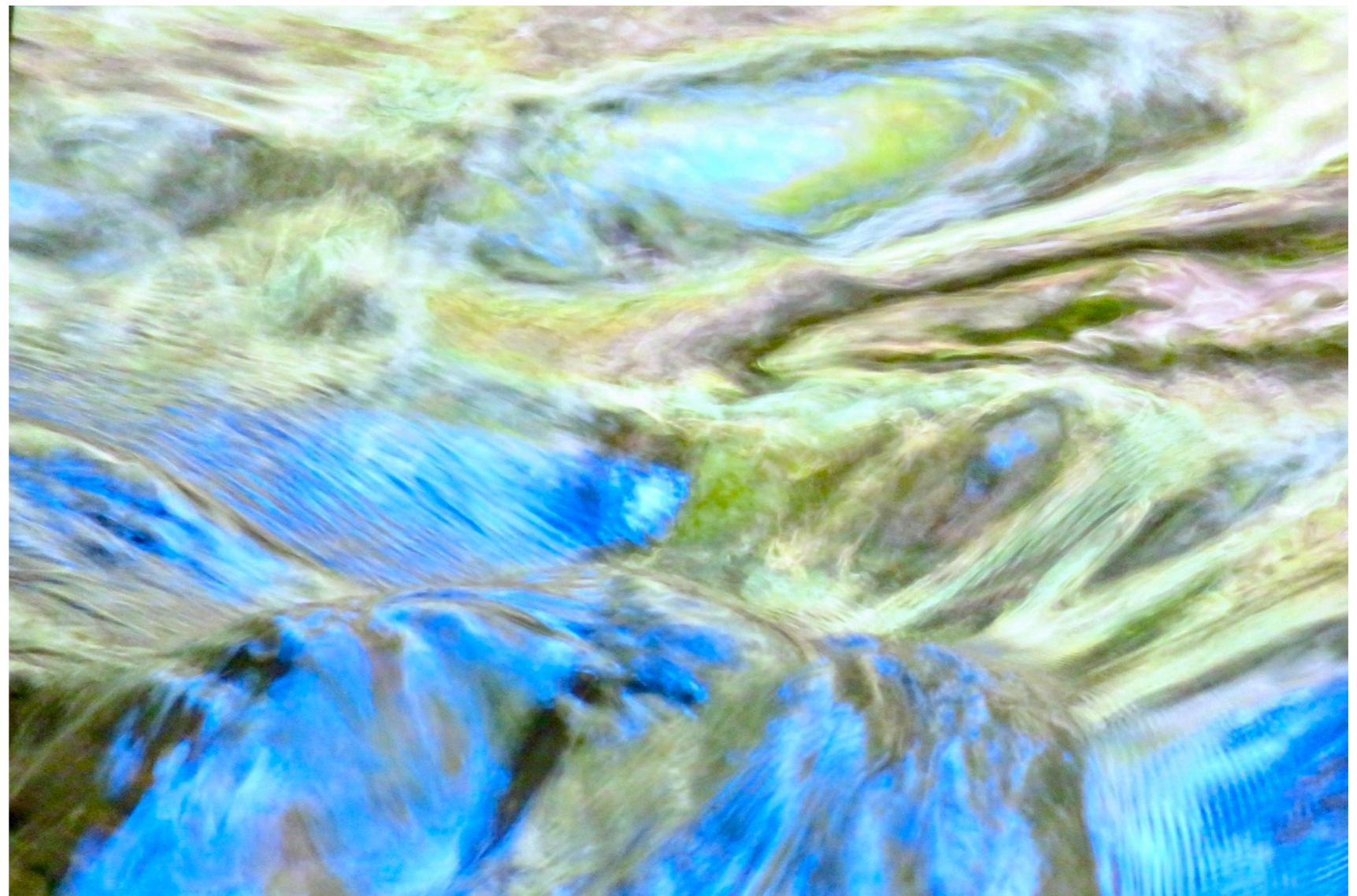
ことばを解体し
ことばの生まれてきた
渾沌のなかから
あらたなことばを生みだす

秩序に縛られて
身動きできなくなったときは

秩序を解体し
秩序の生まれてきた
無のなかから
あらたな秩序を生成させる

かたちに縛られて
変われなくなったときは

かたちを解体し
かたちの生まれてきた
自然のなかから
あらたなかたちを生成させる



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

見ても
見えるのは
見る力がないからだ

見るためには
内なる目を
育てねばならない

光を編み
内なる目とするのだ

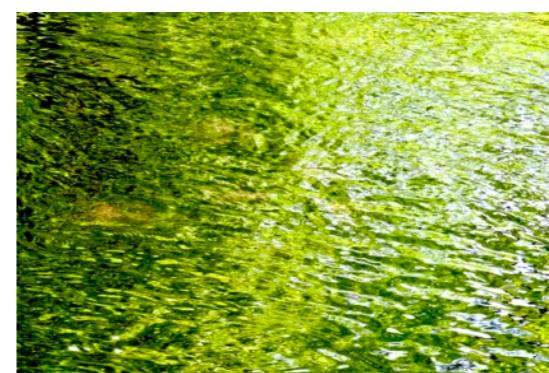
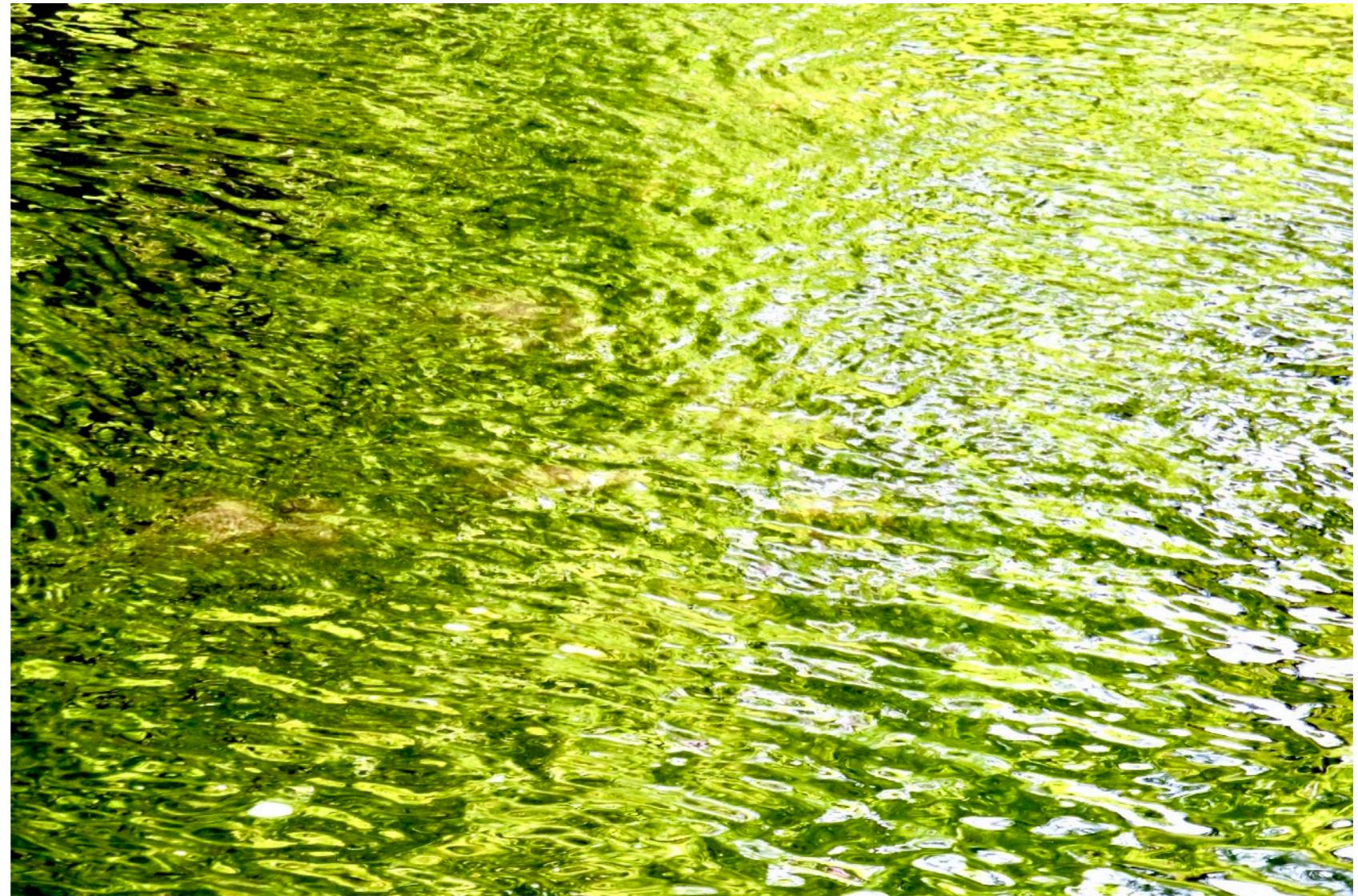
そのとき
世界は光の姿形で現れる

聞いていても
聞けないのは
聞く力がないからだ

聞くためには
内なる耳を
育てねばならない

楽を奏で
内なる耳とするのだ

そのとき
世界は楽の音を響かせる



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3716 2024.11.12

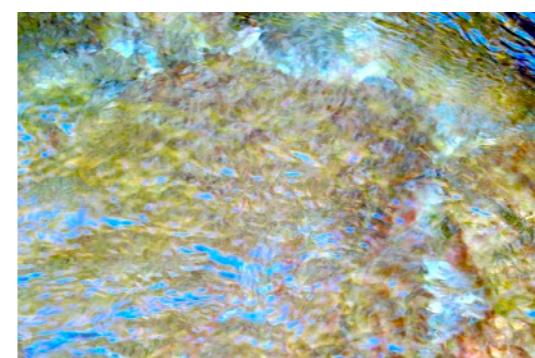
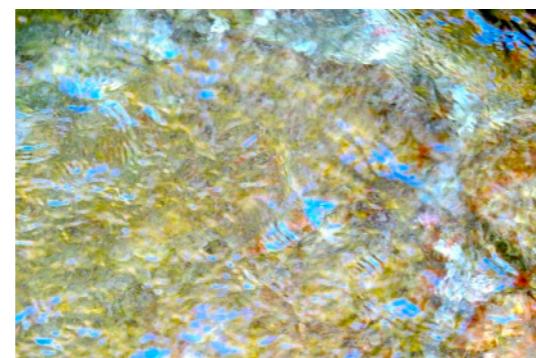
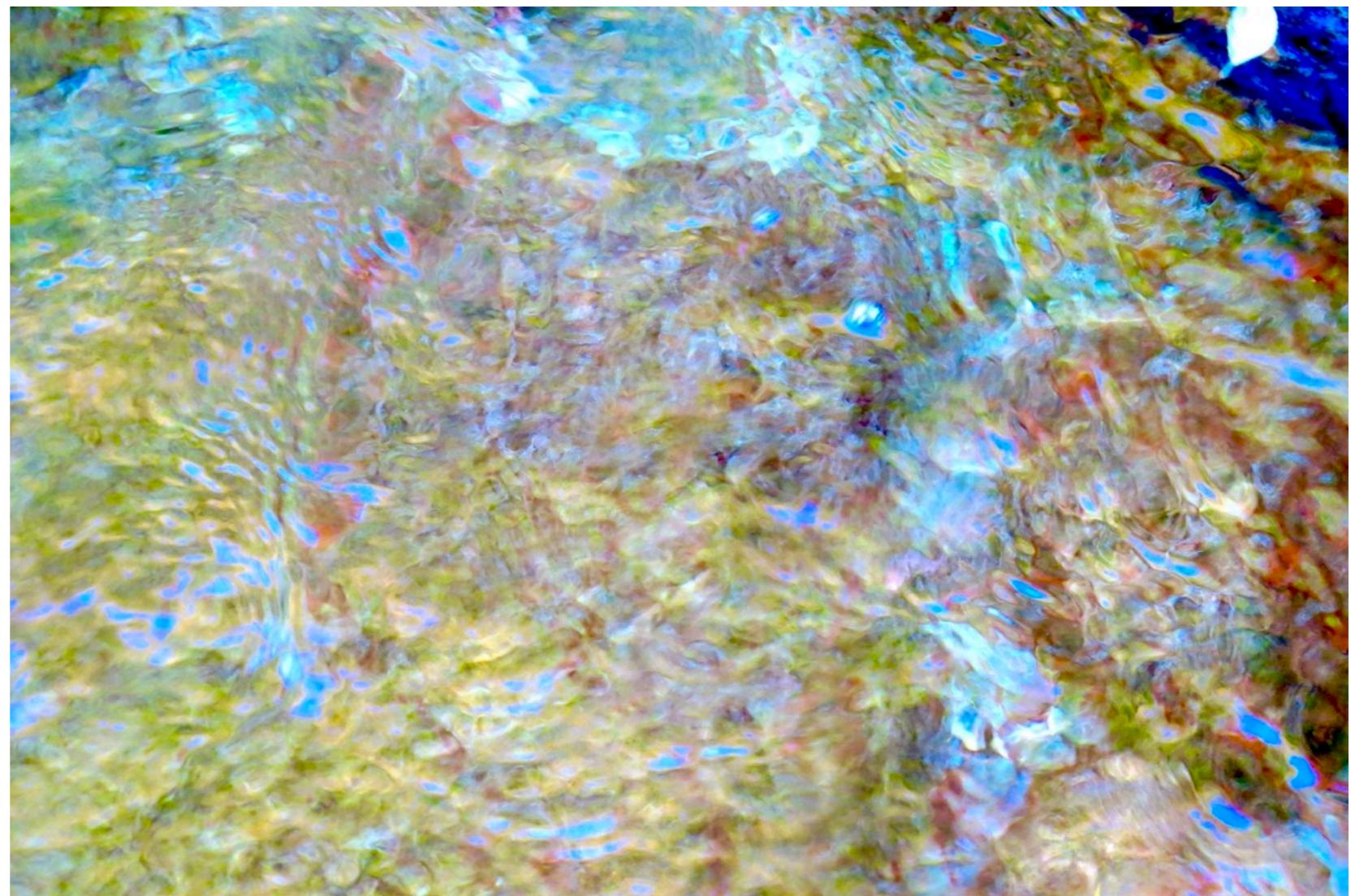
ひとつだけ
願いが叶うなら
なにを願うだろう

ひとつだけ
言葉を伝えられるなら
なにを伝えるだろう

ひとつだけ
奏でられる調べがあるなら
なにを奏でるだろう

ひとつだけ
記憶を残せるなら
なにを残すだろう

ひとつだけ
死後に持っていけるなら
なにを持っていくだろう



*愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

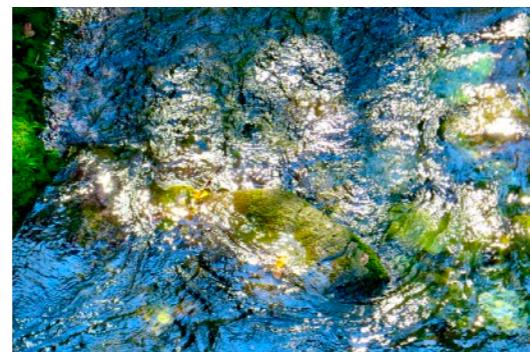
心を縛る声は
じぶんの声

出口のない
心の迷路のなかで
繰り返し何度も何度も
じぶんの声が反響する

縛られた心を
解き放つのは
縛られた心を見つめる
もうひとつの心

二次元の迷路も
三次元から見れば
じぶんが見える

山を登っているときに
見えなかった景色も
山頂で見晴らせば見えてくる
そんな景色があるように



*愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

ここが
むずかしくなったときは

気づかないところで
ここに
働いている力を
見つける

だれかに
暗示をかけられてはいないか
いつのまにか
こころを縛りつけてはいないか

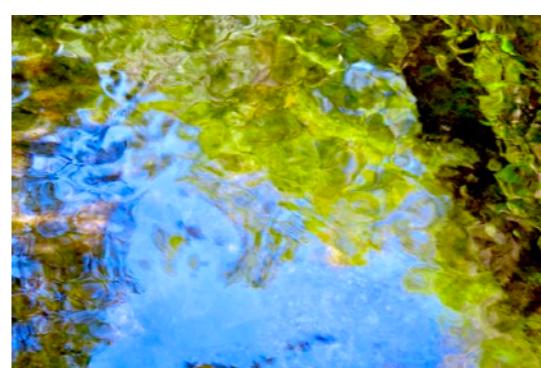
ここには
力が眠っている

その力を目覚めさせるために
夢の力と協働する

夢は知らず
こころの深みで
わたしたちを導いているが

暗示をかけられ
縛られているこころは
夢のほんとうを
ひらくことができずにいる

けれど怖い夢の顔をふりむかせ
それを見る勇気さえあれば
それはそれまで見ることのできなかった
じぶんの顔だとわかる



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

学ぶときは
学んだことから
自由になることも
学ばなければならない

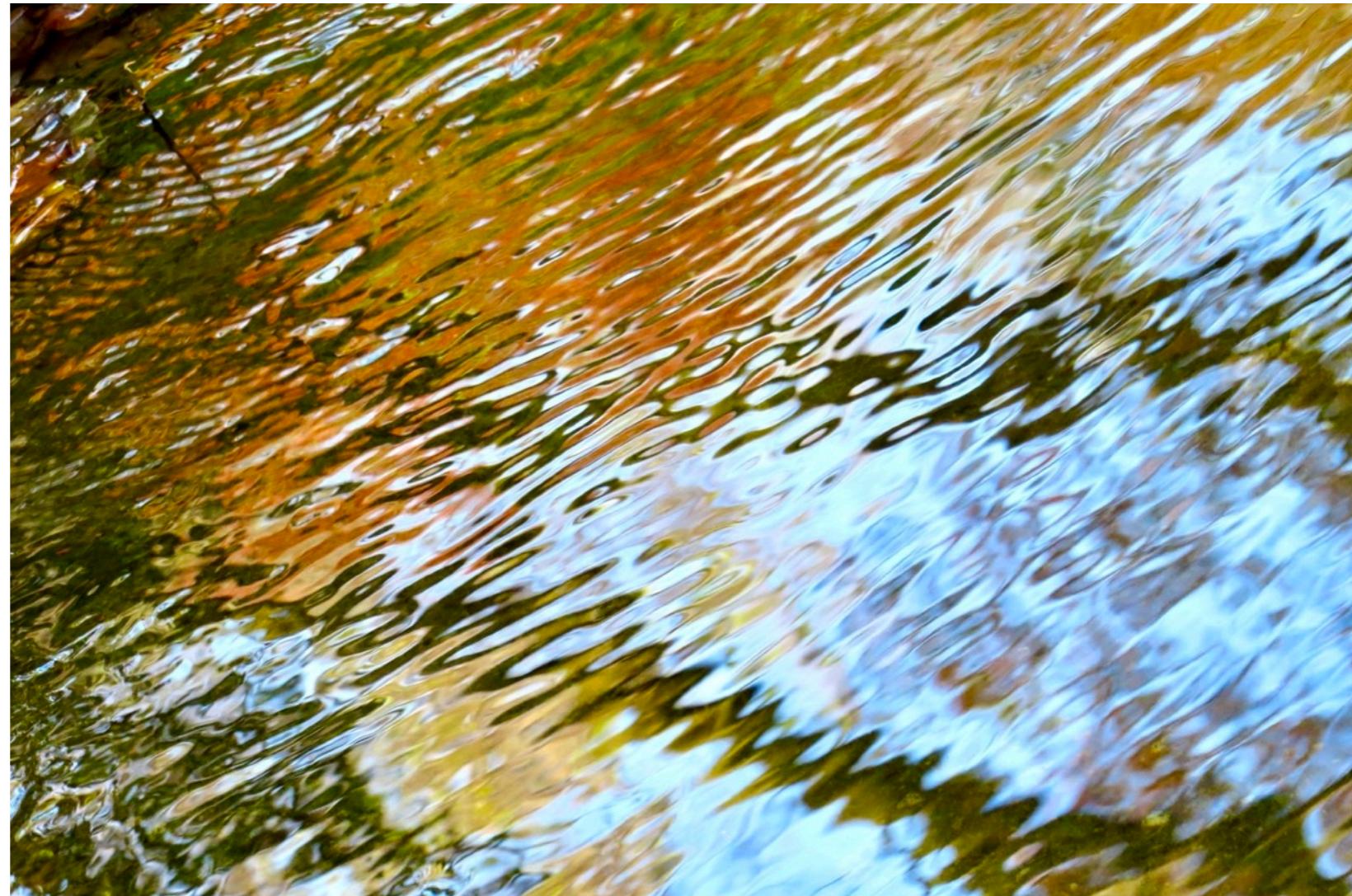
学んだことに
依存しないですむように

みえない依存に気づいたときは
学んだことを離れ
あらたな学びへとアップデートする

依存は
言葉ともむすばれているから
その意味や使い方も
あわせてアップデートする

依存は
からだともむすばれているから
その使い方や
からだをつくっている食べものも
あわせてアップデートする

学ぶということは
わたしという〇Sにこそ
依存せざるをえないから
わたしがむずかしくなったときは
あらたなわたしへとアップデートする



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

じぶんではないものに
出会うために
生まれてきたのに

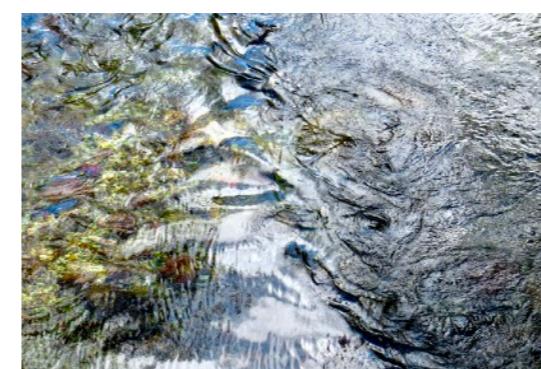
じぶんではないものを
拒むとき
なぜ生まれてきたのかが
わからなくなる

嫌いなものを
好きにはなれなくても
そこにじぶんではないものを
気づかせるなにかがあることに
気づくことができるのに

矛盾するものを
肯定することはできなくとも
矛盾とされていることのなかに
矛盾を超えるなにかがあることに
気づくことができるのに

白か黒か以外に
観ることができなくとも
そこに白か黒か
灰色でさえないものがあることに
気づかせるなにかがあることに
気づくことができるのに

じぶんではないものに気づき
それをじぶんのなかに見つけるために
生まれてきたのに

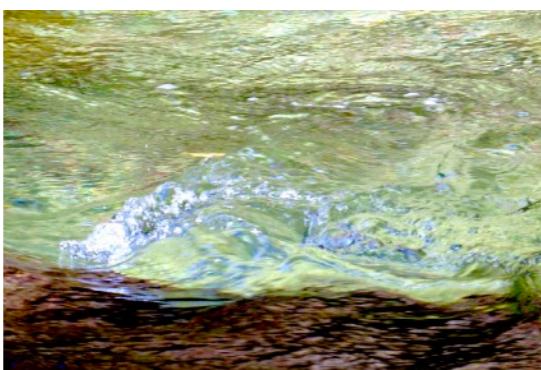
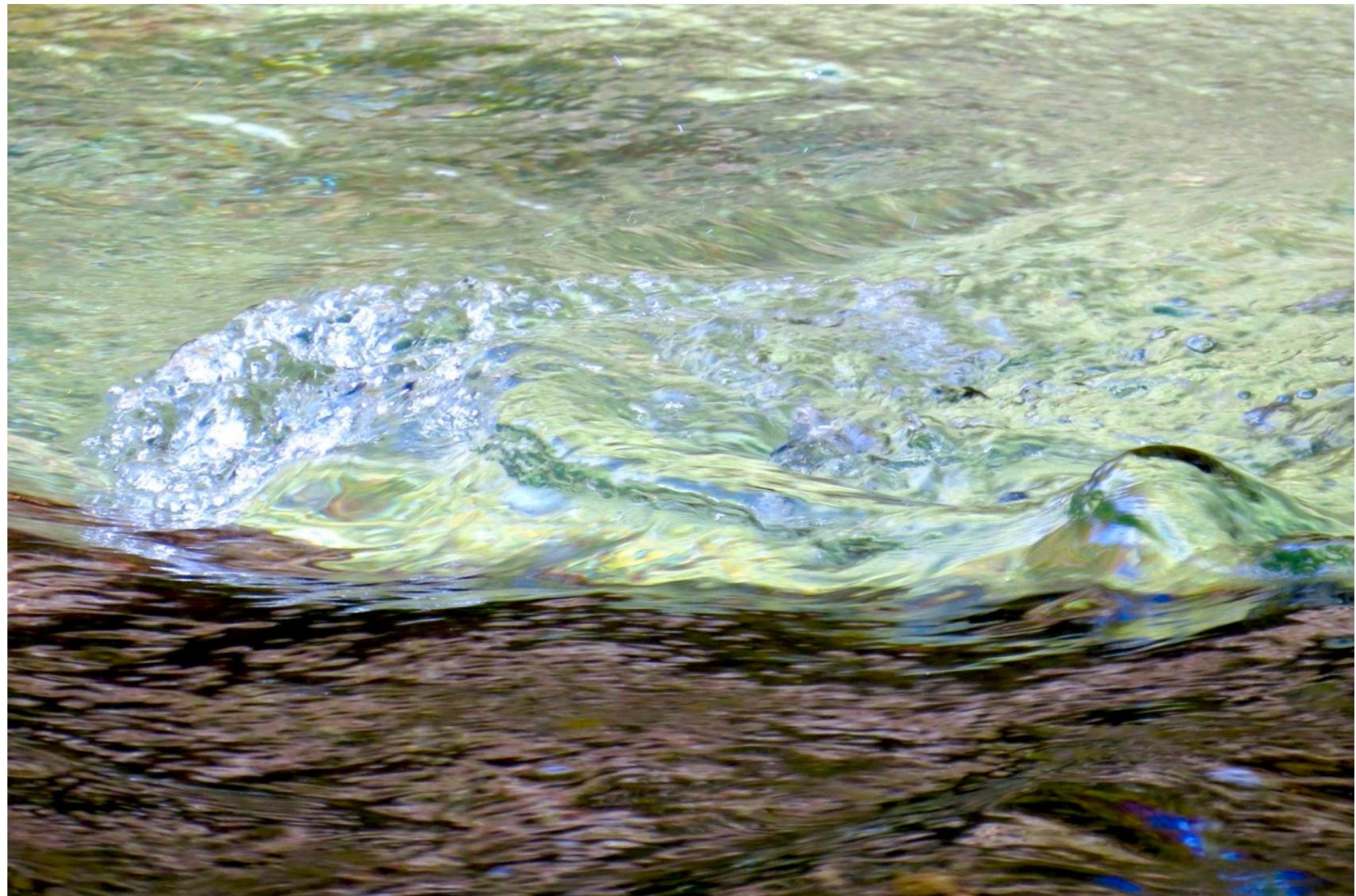


動いているのか
動かされているのか
わたしたちは
そのあいだをただ踊っている
動くとは何なのかさえわからぬままに

感じているのか
感じさせられているのか
わたしたちは
そのあいだをただ奏でている
感じるとは何なのかさえわからぬままに

考えているのか
考えさせられているのか
わたしたちは
そのあいだをただ遊戯している
考えるとは何なのかさえわからぬままに

与えているのか
与えられているのか
わたしたちは
そのあいだをただ生きている
与えるとは何なのかさえわからぬままに



*愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

忘れる
生きてはいけないことがあり
忘れなければ
生きてはいけないことがある

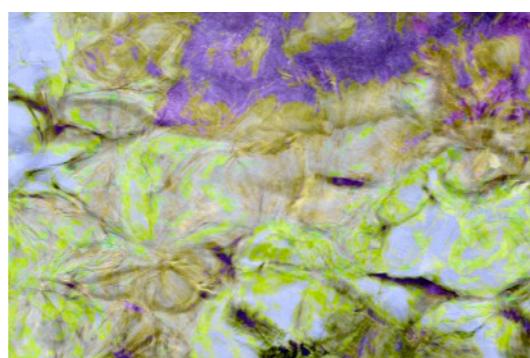
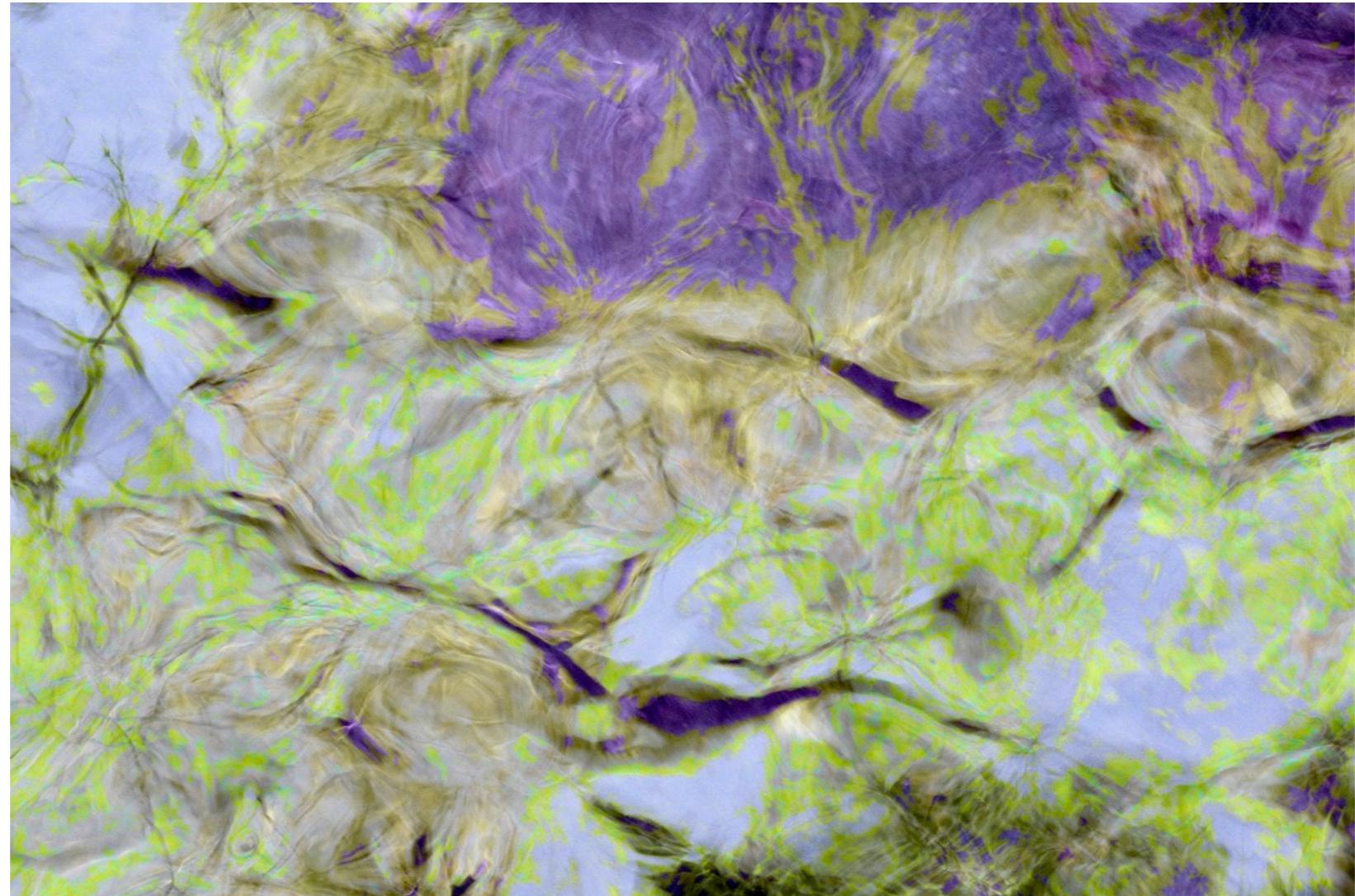
忘れたくなくても
忘れてしまうことがあり
忘れないのに
忘れないことがある

忘れているのに
おぼえているカラダがあり
おぼえているのに
忘れているカラダがある

失われはしないが
行方不明のまま
見つからない記憶があり

言葉にさえならないまま
どこか知られぬ深みから
浮かびあがる記憶があり

知らないあいだに
わたしを縛り閉じ込めている
謎のような記憶がある



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3723 2024.11.19

異なった世界をむすぶ
魔術師になる

表と裏をむすび
表が裏に
裏が表になる
そんな世界を生きる

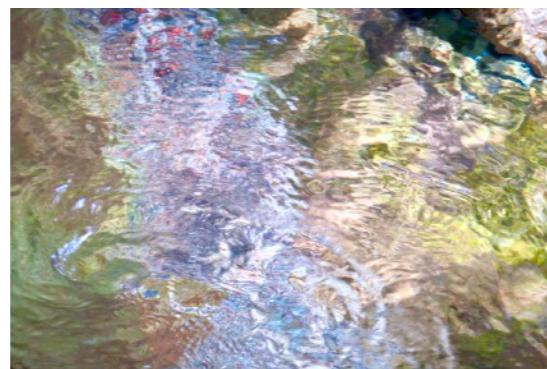
内と外をむすび
内が外に
外が内になる
そんな世界を生きる

夢と現をむすび
夢が現に
現が夢になる
そんな世界を生きる

光と闇をむすび
光が闇に
闇が光になる
そんな世界を生きる

我と汝をむすび
我が汝に
汝が我になる
そんな世界を生きる

遊びつづけられる
魔術師になれますように



*愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3724 2024.11.20

あたりまえが
あたりまえでは
なくなるとき

あたりまえを
あたりまえとして
生きていた人も

うたがいもなく
あたりまえを
教えてきた人も

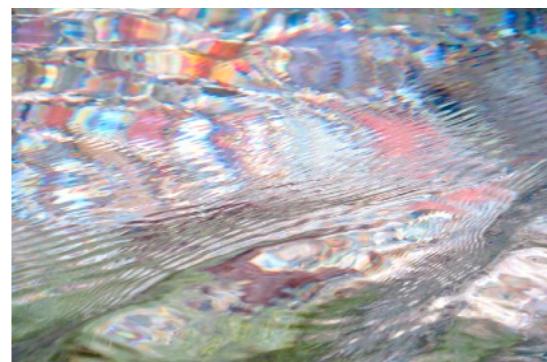
こころのほんとうが
零れ落ち崩れて
どうしていいかわからなくなる

じぶんのなかの
あたりまえを見つける
鏡をもつことだ

その仮面にはなにが
映っているのか
仮面を外したとき
そこにはなにが
映っているのか

あたりまえが
あたりまえでは
なくなるとき

あたりまえを
映し出していた鏡は
それまでは見えなかった
仮面の下の顔を
映し出すようになる



*愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3725 2024.11.21

わたしが見るとき
見られるものも
わたしを見ている

せかいは光になってゆく

わたしが聴くとき
聴かれるものも
わたしを聴いている

せかいは音になってゆく

わたしが言葉を語るとき
語られる言葉も
わたしを語っている

せかいは言葉になってゆく

わたしが作るとき
作られるものも
わたしを作っている

せかいはものに満ちてゆく



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて